

第8回大崎市総合教育会議 会議録

1 開催日時 令和2年1月9日(木) 13時30分～15時43分

2 開催場所 大崎市古川七日町 大崎市役所 東庁舎5階 大会議室

3 参加者

(1) 構成員

大崎市長 伊藤康志
教育委員会 教育長 熊野充利
教育長職務代理者 青沼陽一
教育委員 若見朝子
教育委員 佐藤寛
教育委員 堀智恵子

(2) 事務局

副市長：高橋英文，三保木悦幸

教育部：部長 佐藤俊夫，参事 佐々木晃，参事兼教育総務課長 尾形良太，学校教育課長 遠藤富士隆，生涯学習課長 高橋和弘，文化財課長 鈴木勝彦，中央公民館長 中川早苗，学校教育課副参事 田中政弘，教育総務課長補佐 大場宏昭，学校教育課長補佐 佐藤康幸，生涯学習課長補佐 高橋泰彦，文化財課長補佐 高橋誠明，中央公民館副館長 佐々木哲也，生涯学習課主幹兼係長 菊地孝志，生涯学習課社会教育主事 滝田誠

総務部：部長兼政策推進監 佐々木雅一，理事兼財政課長 赤間幸人，危機管理監 櫻井俊文，防災安全課長 三浦利之，防災安全課長補佐 菊池勝行

民生部：部長 安住伸，子育て支援課長 宮野学，子育て支援課長補佐 長谷川崇

市民協働推進部：部長 門脇喜典，参事兼政策課長 渋谷勝，政策課長補佐 高橋學，まちづくり推進課長補佐 松岡治，政策課主幹兼係長 氏家伸一，まちづくり推進課主幹兼係長 鈴木輝彦

(3) 傍聴者 なし

4 報告事項

第1号 放課後児童クラブサテライト室の緊急時の対応について

第2号 通学時の安全対策について

5 協議事項

第1号 地域でがんばる若者の人材育成

「(仮称) おおさき未来塾と地域の連携」について

6 会議資料

資料1 放課後児童クラブサテライト室の緊急時の対応について

資料1-1 児童館・児童センター施設等における事故・事件対応マニュアル

資料2 通学時の安全対策について

資料3 地域でがんばる若者の人材育成 (仮称) おおさき未来塾 概要

資料4 おおさき見る知る伝うプロジェクト 取組状況

資料5 地域でがんばる若者の人材育成（仮称）おおさき未来塾 事業展開

資料6 地域でがんばる若者の人材育成（仮称）おおさき未来塾と地域の連携について

7 会議の概要

- ・事務局の進行により開会
- ・市長から開会のあいさつ
- ・事務局から出席者の紹介
- ・市長が座長となり会議を進行

報告事項

第1号 放課後児童クラブサテライト室の緊急時の対応について

【資料に基づき説明】（資料参照）

質疑なし。

第2号 通学時の安全対策について

【資料に基づき説明】（資料参照）

○**市長**：ただ今の説明について委員の皆様方からご質問ご意見がありましたらお願いします。

○**若見委員**：通学路にカーブミラーを設置してほしいところがある。曲がっているカーブミラーもあり、見えにくくなっている。通学路だとわかるように、舗装の色を変えたり、看板表示の工夫も必要。

また、各PTAに協力をいただいて通学路の一斉点検を春に行うが、水路に蓋がなく、毎年一年生が水路に落ちて怪我をする話が出る。PTA全体で、4月だけではなく、何回か歩き点検をしていただけると嬉しい。

○**防災安全課長**：カーブミラーの新規設置は、年次計画で行っているため直ちに設置が可能とはいかないが、カーブミラーは対応できる場合があるので、防災安全にご連絡をいただきたい。

○**青沼教育長職務代理者**：通学路の安全対策について、PTAの協力をいただくのもよいし、どこかで吸い上げることは可能。教育委員からPTAにということだが、アンケートで情報は集めたりしているか。

○**防災安全課長**：大崎市通学路等安全推進会議で過去のデータは把握している。その中で対応が完了したもの、今後対応すべきもの、至急対応すべきものとランク付けをしている。

○**市長**：教育委員会側からは。

○**学校教育課長**：年度当初に、各学校に通学路の安全点検をお願いし、危険箇所等々の報告をいただいている。指摘事項を整理し、重要な危険箇所や緊急を要するものに分類しながら、大崎市通学路等安全推進会議に諮り、各部署に対応を求めている。

- 青沼教育長職務代理者：結構である。過去のデータだけではなく、毎年状況が変わっているの、新しく吸い上げたもので対応をお願いしたい。
- 市長：引き続き連携して対応をお願いしたい。

協議事項

第1号 地域でがんばる若者の人材育成

「(仮称) おおさき未来塾と地域の連携」について

【資料に基づき説明】(資料参照)

- 市長：委員の皆様方からご意見をちょうだいする前に、連携の意味で、地域づくりの関係から、まちづくり推進課から意見をちょうだいしたい。
- まちづくり推進課長：当課においては、大崎市が誕生して以来、地域自治織の基盤形成、市民協働によるまちづくりのしくみを市民の皆様と共に育んできた。しかしながら人口減少、ライフスタイルの変化に伴って地域活動の担い手の不足等による役員の高齢化、事業の多様化による組織の弱体化というのが顕在化するようになった。こうした中で仮称おおさき未来塾というのは、この組織が抱えている活動の担い手となる人材不足、それからリーダーの人材不足、事務局運営の担う人材不足といった課題、これに対して大きな期待を寄せるものと考えている。

具体的に連携できるしくみとしては、事務局の機能のサポート、それから事業活動等の応援、ワークショップファシリテーター派遣、ステップアップ、チャレンジ事業交付金を活用した事業活動の展開がある。また、コミュニティビジネスなど、地域の受け入れ態勢も協議をしなければいけないが、若者のアイデアや提案に応じて柔軟に対応できるものと考えている。

- 市長：まちづくり推進課からの連携の紹介をいただいた。意見をちょうだいしたいと思うが、古今東西これまでも言いつくされているが、その国やその町の若者を見ればその国やその町の未来がわかると言われていた。

大崎市合併以来、次の時代を担う若者の感性で、まちづくりや災害復興への取り組み、先日の移動市長室では、高校にお邪魔しての意見交換、あるいは議場で高校生との政策談義を行った。また、青年会の皆様方ともこの一年間のまちづくりに対する意見交換も行った。

それぞれいろんな形で頑張っているが、市内の各セクション、各地域で、若者が未来に希望を持って活動できるような環境をつくっていききたい。選挙では若者の投票率が低い。大いに若者の夢や希望が地域の中で存分に発揮できるような環境をつくっていききたいということから、今回、仮称おおさき未来塾を創設したいと考えている。担当から、是非教育委員の皆様方からのご意見を託された。おおさき未来塾を立ち上げるにあたっての全体のあり方に対するご意見や構成メンバー、あるいは参加された若者が地域とのマッチングをどうしていくかというような視点でご意見をちょうだいし、それを軸に構築していききたい。

青沼委員からお願いします。

- 青沼教育長職務代理者：仮称ですが、未来塾と称して青年を対象にした活動に目を向けていただいた。総合教育会議の案件になっているということに対して、生涯学習を現職

時代から26年27年くらい携わってきた者として大変嬉しく思っている。さらに先ほど市長さんがおっしゃっていたように、若者を見るとその町の将来が見えるということから、是非とも取り組んでいただきたい。

全体構想像としては非常によいと思う。課長の説明でとてもわかるし、文章を見てもすっといきそうだが、経験者からみると、かなりの壁があると正直感じている。

一つ目として、資料3のきっかけづくりだが、これが形として集うまでの間にかかなりの問題があると思った。そこで、きっかけづくりのプロジェクトについて、他の方法もいろいろあると思うので、これ以外にも考えてほしい。

二つ目は、構成メンバーについて高校生や大学生とあるが、子どもサミット、中学生サミットで出される意見は、非常に発想が豊かで、我々大人にはない光る意見がパッパッと現れる。対象を小学生からとは言わないが、つなぎの部分、入り口の方として、サミットに参加した中学生の参画も一考してほしいと感じた。

形をつくり過ぎるのではなく、就職や大学で東京などに行っても、夏休みなどに帰ってきたら、メンバーには所属していなくてもイベントに入ってもらおうなど、繋がりを持っておくとよい。

また予算はいくらあるのか。

○生涯学習課長：初年度であるので15万円程度である。まずは基盤づくりということで考えている。

○青沼教育長職務代理者：あまり焦らないでやってほしい。まちづくりでは未来塾と似たような集まりを持っていると思うが、そことの連携は何か考えはあるのか。

○生涯学習課長：まずは集まった青年たちの意見を尊重しながら、どういう形で進めていくのかなど、方向を含めて一緒に考えていきたいと思っている。

○まちづくり推進課長：古川まちづくり協議会では宮城大学の女性の学生が入ったり、来月岩出山で開催する「きょう Do!のまちづくり文化祭」でも、若い人たちを入れて企画もしている。今後未来塾といろんなタグが組めるとことができると思うので、連携を密に効果的にやっていければなどと思っている。

○青沼教育長職務代理者：是非それをお願いしたいと思う。エリアを分散して住み分ける考え方ではなく、同じ大崎市の総合教育会議で考えていく。

また、以前も話したが、子育て支援課と生涯学習課、青年文化祭と高校のバンドなど具体的に内容の似たイベントは、繋がりを含めエネルギーを集約して開催してほしい。

○佐藤委員：未来塾は具体的な進め方もあり、良い取り組みだと思う。ただ、定員はもっと多くてもよい。

ぶらっと集える部室みたいなものがあればと思う。大学生が大崎市に帰ってきたときに、図書館か中央公民館などで、ぶらっとお茶でも飲めたり、まちづくりの団体と一緒にでもよいと思うが、土曜日、日曜日とか時間があるとき、市民が自由に集まって話ができる場があるとよい。高校生や20代の若い人たち、あるいはもっと高齢の人がいてもよいと思う。いつ何時に集まってくださいというのではなくて、行きたくなったときに同じような人達と話しができる場があれば自然と交流も深まってくるかなと思う。

○市長：ありがとうございます。それでは高橋課長お願いします。

○生涯学習課長：たまり場というものが本当にあると非常によいなという印象を受けた。

すぐには難しいが、いずれはそういう形で若者のカフェみたいなものができればと思う。

○**中央公民館長**：中央公民館の代替施設として地域交流センターの整備を進めている。生涯学習の拠点施設として、公民館事業や地域活動の発信などを含めて、ふらっときて話し合いができるよう、令和4年の4月の開館を目指して進めている。

○**市長**：中川公民館長から話題提供いただいたが、政策課長のほうから市役所の市民交流センターについて何かないか。

○**政策課長**：市民の皆様が自由に立ち寄れる市民交流エリアとして、概ね自由にご来庁いただき、若者を含めた賑わい創出の場になるということを期待しながら進めているところである。

○**市長**：先ほど図書館のお話しも出た。今日は図書館長がきていないが、生涯学習課で図書館のいろいろなスペースを若い方々が使っている状況は確認していないか。

○**生涯学習課長**：学習室はもとより若い中学生、高校生が新しくなってなおさら勉強しに来てくれる学生の姿がすごく目立っている。環境のよい中で勉強したいというニーズがすごくあったのかなと思っており、非常に使いやすい施設ではあるので、是非活用できればと思う。

○**市長**：店舗対策ではなくてもそういう実践について確かに若い方々が集まる場所のきっかけづくりの一つとして、図書館あるいは街の中に中央公民館機能、市民交流機能的な市役所という中で、若い方々があまり敷居が高くなくて集えるような雰囲気をつくっていくと必要だと思って聞いていた。

それでは堀委員さんお願いします。

○**堀委員**：大変素敵で大崎未来塾である。全部叶えばよいが、すごく大きな構想なので、もう少し小さくしてみる。一つひとつの具体的な例というかやり方が考えられるのではないか。

大学生になって東京に行ったとしても、一度就職で街を離れたとしても、ここで暮らす人たちが生き生きとしているというそういう部分が全面に出たほうがよいと思うので、例えば資料4の写真などは、「#大崎いいね」をどんどん投稿してもらうように工夫をしてはどうか。

それから、年齢は少し上になるかもしれないが、いろんな今ある団体をピックアップするよりも何かをしたいという人の声を拾ったほうがいい。私の近くではよさこいを一生懸命夢中になって子どもと一緒に踊っているお母さんや子どもたちがいるのですね。その人たちは仙台のよさこいまつりはちょっとハードルが高いけれど、この辺でもいっぱいやっているところがあり、登米かどこかは30団体ぐらいがよさこい祭りをするのだそう。例えば先ほどの古川まつりなどもそうだが、あそこでよさこいのパレードなどをやる、やりたい人を募集をする、それからそこを運営する側で例えばお手伝いする若い人たち、そういった何をしたいか、によって声をかける対象をわけていったほうがよいのではないかというふうに思う。企画をしたいあるいはこの部分はこういうふうにやっていきたい、そこには必ず自分たちで考えてというのはわかるが、経験者であったり、ちょっと一歩引いてアドバイスを的確にしてあげられるような少し経験のあるような方、こういった方たちを必ず置いておかないとやる気があるのに空回りをしてしまうとか、それから、始めに予算ありきではなく例えばこういったものをするにはどれくら

いの予算が欲しいのだろうかとか、お金がどれくらい必要だろうかというところまで考えさせて、それで実行させてみよう。まるでゼロからの何かプラモデルを組み立てるような、パーツを1コ1コつくりあげるようなそういう楽しみを一度味わうと、じゃあもっと大きいプラモデルにしようみたいな、もう少し高いものにしようとか、あるいはもっと人を多くしようというふうに頑張りや欲が出てくると思う。だから始めの集める人材というか人数というのは決して数でもないし年代でもないしそういったような核になる人たち、これが一人はちょっと難しいとしても二人三人こういったところから知恵を出し合ってもう少し人を集めてみようとか、そういうやりたいという人たちが声をあげてそれではどこの誰を引っ張ってくるとか、あそこの誰さんがよいと思うから呼ぼうと思うというふうなそこをくすぐってあげるようなそういった持っていく方をすると、とても市がこういうふうな方向性を打ち出して受け皿を持っているのだということがわかればよいと思う。やはり人ありきだと思うので私はこれはすごくよいと思うが、今ある団体がうんというよりはそういった活動してから例えばその楽しい部分、豊かな生き生きとした部分をインスタグラムにあげていくとか、インスタグラム最初ではなく、YouTube 最初ではなくまず人が最初というふうな方法をしたほうがよいと思う。

それから、ちょっと一つ思っていたが、もしも話の内容からそれてしまったらすみませんが、大崎市内の町の中でランニングをするという、例えば皇居の周りを一生懸命走る大人がいますよね。あれは何か見ているゆとりというか豊かさとは言わないけれども、自分の人生を一生懸命働きながらそういう時間もつくり出して楽しんでいるというふうな、そういう人に見えるときがある。私は走りませんができれば図書館のようなそういうところにロッカーを設置して、あそこを起点にして走ってもらうとかというふうなことで、そこで着替えたりすることでまた人と人とがつながるといふか、そういったような楽しい町、豊かな町、ゆとりのある町の雰囲気づくりというのもそういった既存の施設、ああいう図書館のような、使いやすい、すばらしいところを使ってやっていただけたらなというのは図書館ができたときに感じていた。

一番はやりたいという方を発掘することが大切ではないかなと思う。皆さんが思っている以上に、やりたいと思っている人たちが、年齢に関わらずたくさんいると思っている。

○市長：ありがとうございます。

○生涯学習課長：ご意見ありがとうございます。本当に人ありきというのは私もそう思う。実際写真も物ばかりなのでいろいろ工夫していきたいと思う。あとやはりいろんなことをやりたいという部分がある。例えば、今おっしゃっていただいたよさこいなど様々なやりたいものをいろいろ実現できたのが前年だということだったので、その辺情報をきちんと発信しながら若者たちがやりたいというものが実現できるような形で進めていきたい。

○堀委員：まず何であれ一番最初は人数が多くなったらよいということ若い子たちに教えてあげるべきだと思う。1回で結果が出ない、若いから時間もあるでしょうけれども、だからと言って10年かければよいという問題でもないが、一度や二度で思った形になるわけでもないし、人数が集まったからといってよい内容になると限ったことではない。そういう意味では若いけれどもそういった勇氣はないのではないのかというか怖が

るのではないかと思うので、いろんなことを挑戦してもらい上では本当に大人は受け止めてあげる、結果はどうであっても好きなようにやってよいよというふうな持っていき方をしてあげればよいのではないかなと思う。

○市長：ありがとうございました。若見委員お願いします。

○若見委員：大崎の宝は子どもたちだと思っている。我が家にも16歳以上の子どもが2人いる。なおかつ私はPTA会長をしている。その子どもたちと一緒に生活をしているとやりたいことがまず実現できない。すごくハードルがいろんなことにある。夏祭りに出たいです、太鼓に出たいです、みこしに出たいですと言ってもやはり学校側は動くか動かないか、地域がそれをウェルカムするかしらないかでだいぶ違う。まず本当に子どもたちがやりたいと言ったときに学校側がイエスと言えばイエスである。なので、学校単位で本当にこういうことをするのであれば子どもサミットのように申し込んでいただいてやり取りするのも手だと思う。子どもたちが学校に行っている間に終わってから市役所に来ていろんな会議に出られるか、無理である。誰かがパイプになってあげなければ駄目である。地域の人たちがパイプになってあげなければ駄目なのである。しかしながら地域では全く世代交代が進んでおらず、私のような親世代が地域に入っていけない。まずこれも一つの問題だと思う。私たちのような子育て世代が入っていけば子どもたちが自然に入っていく。そこで伝統芸能であったり文化が育まれると思う。全く80代の方々が上にいるとなかなか私が若者過ぎてしまって入ってはいけない、メンバーにも入れない、このような地域が間違いなく地区にはある。

大崎市には鳴子や三本木なども海外派遣などの事業を担っていてそこでネットワークなどもできている。その子たちは学校が決まっているわけではなくて、大崎市の広域から求めるのでいろんな学校の子どもたちも来ている。その交流をしている子どもたちを使って大崎いいね！を活用していくのも手だと思う。私はこの大崎市いいね！をフォローしている。やはり菊地さんが言うようにものだけではなく人の顔があったほうが断然よいと思う。今までこういうのはたくさんあった。しかしながらだんだんと影が薄くなっていったというのが事実だと思う。学校と若者、そして地域を繋ぐラインがなければこれはちょっと動かないのかなと正直私は思っている。

先ほど堀さんが言ったように、ランニングチームはあるかとおっしゃったが実際ランニングチームはある。私はそのランニングチームに入っている。そして走っている。そのチームでスキー場を使ってスキーの大会なども鬼首さんで開かせていただいた。こういうこともたぶんあまり知られていることではないと思う。やっていることはたくさんあって、まちづくりさんのほうでもリーダーをつくるということでリーダー塾みたいなものもたくさんあって、やりたい、やりたいという人が本当に山のようにいる。しかしながらそれがその人たちが実現できるのと聞くと、私にはその勇気はないとか、ここに来るのが精いっぱいと言うのである。だったら誰かがこれをやろう、おいでと言うとたぶん全部付いてくるのではないかと思う。それぐらいのマンパワーは大崎市には間違いなくある。なので、何をやらせたいのか、どのような形にさせたいのかというのは、まず学校だったり親だったりそこが見せないと若者までなかなか難しいのではないかなというのが私正直なところである。もっともっと若者が学校間で交流できるような企画を大崎市で何かをつくって学校に呼びかける、そしてやる。

吉野作蔵記念館で社会貢献大賞というのがあって去年私の娘が受賞して、今年も受賞させていただいた。ああいうのは学校の方々が来てやっている。個人は私の娘だけだった。なので、学校に持って行って学校の先生方が子どもに言ってくれれば子どもはやる。ただそれが学校の中で止まってしまうというのが一つ。大変なところであるとは思いますが、親のアンテナをまず立てるといふところが必要なのではないかと。若者を動かすにはまず親のアンテナを立たせるといふところがすごく必要なのではないかと。若者を16歳から29歳までといふのがすごくハードルが高いのかなと思う。

大崎市のいいね、みんながいいね、生まれたところからがいいね。fプラザのこの看護師さんいいねとかから始まって、子どもが生まれたこと自体いいね、それでよいのではないかと。いいね、がいっぱいあればよいのだと思う。それがふるさと教育に私は繋がっていくのではないかなと思う。

○市長：ありがとうございます。

○熊野教育長：若者に元気をつけてもらいたい、この地域を愛してもらいたい、若者がいっぱいいる大崎の、この3つから大崎未来塾構想が始まった。概ね一年ぐらいかかって私たちああでもないこうでもない、今日総合教育会議でこういう議題として協議の話題として上がるまでにきたということ私自身としては関係者の一人として非常にうれしく思うところである。生涯学習課の担当を含め皆さんには本当によくここまで来たんだ、物事は思ってもできないのが普通であって、思ったものが形になってくるというのはたいしたものだなと、そういう思いが最初にある。完璧になかなかうまくいかないことは百も承知であるが、一つでも本当にあまり固くないことが膨らんでくればいいな、あちこちで輪が膨らんでくればいいなという思いをしている。

是非、今日の意見を含め今後もいろんな意見を聞かせていただきながら、さらに改良したり改善したりといふかえってそのぐらいのほうがよいのかなという思いである。

ハッシュタグ、インスタグラムと言うが、ハッシュタグという言葉を知ったのもこれがあったお陰で私は知った。現在いろいろまだまだこれからだが、12月の末ぐらいいから始まって60件くらい上がってきた。質的にも高め、数的にも高まっていくことを大きな期待をし、またこれがきっかけで大崎というのをそれぞれの人たちが認識をして、そして今度は未来会議ということで膨らんでいけばよいなと思っている。

ただ、私の心配が一つだけある。皆さんもうおわかりだと思うが、生涯学習課の人的な補充は大丈夫なのかなと、他の仕事も抱えながらこの新しい結構大きいことで非常に重要だと今日の皆さんと認識は共有できたのかなと思うが、肩にかかる重みを支え切っていたくための人的補充がどうなのかなという心配をしているし、会議体をつくれれば子どもたちに自由に話しをしてもらいたい。その話し合いをある程度コーディネートできる人間も必要なのだろうなと思う。併せて部室、塾室あればよいですね。そういうことを聞かせていただき、各協働参加の皆さんからこれからは様々なご意見をいただければ有難いと思っている。

○市長：それぞれ一巡いたしたが、会場でおいでの方々、せっかくの機会ですから私のほうで伺いますからどうぞご発言お願いします。

参加者見る限り一番若い職員、村岡君と輝彦君あたりに若者代表で。

○まちづくり推進課主幹兼係長：僭越ながら若者代表としてマイクを握らせていただく。

今一通り委員のほうからご意見ご提案をいただいた。実は堀さん、若見さんについてはPTA関係などいろいろなつながりがあったうなずきながら聞いていた。実はこのいいね、についてのことだが、私が今現在携わっているのは東大崎地区振興協議会で地域計画をつくって従来の組織体制を見直して、若い人たちを一生懸命活躍できる地区振興協議会にしようというので、今現在月1回ずつだが〇〇〇〇シリーズのワークショップを踏まえて今若手数十名を集めて地域計画策定委員会と名を打ってやっている。その中で、これと似たようなことがあって、東大崎のとおきのいいね、の写真を地域の地区民から集約して、それを年度行事カレンダーをつくってみようというような動きが今現在計画企画されている。まちづくり推進課のほうで用意しているステップアップ交付金を活用して、来年度この実行委員のメンバーがチャレンジするというような話で今盛り上がっている。

あと、もう一点だが、若見委員のほうが平成25年だったが先ほど大崎の宝は子どもですという話があったが、今現在親の人たちの子ども会がだんだん定着化してくるといようなことを踏まえて、若見委員のほうが音頭をとってこられて第4小学区だったのだが、荒尾の地域づくり委員会と連携をしてチャレンジ事業交付金を活用して、第4小学校の体育館でマジックショーを子どもたちと父兄と一緒に実現したというようない取り組みもある。実際このような地域でも人材育成についてはかなり頑張っているというところである。

1月6日に宝の都活性化貢献賞を受賞した富永地区振興協議会は、自主防災組織の活動と子ども会の活動を連携して、一緒にAEDの操作の仕方を学ぶというような企画も実現しているし、自主防災組織に携わる若手を小学校、中学校にボランティアとして呼びかけをして、学校の協力の中で今二人しかいないが、自主防災組織の避難所の訓練を自ら中学生が行っているというようない実績があるので、まちづくり推進サイドとしてはこのような本当のちょっとした小さな変化ではあるが、こういったものを大きな変化に変えていくようなサポートの仕方を行っていければなと思っている。以上になります。

○市長：その他ございませんか。委員の先生方で改めて何かご発言ありませんか。

○青沼教育長職務代理者：是非お願いしたいと思っていることがある。未来塾構想ができてこれは何年かすると担当の方ももちろん変わってくるがあるので、引継ぎとかそういうことを含めて自主自立でそういう活動が自発的にやってくるという理想的な話しは出るのだが、常に行政はこれから先です、一緒に共に動くという考え方でコントロールしないと、ふわあーっといなくなったり、あとはどこかへ吹っ飛んでしまっという集団が偏っている可能性もある。是非ともそれをなくしたい。特に教育長が申し上げたが、そのためにはマンパワーの話も出たが、これだけの事業をやるには担当がきちんといないと厳しいのかなというふうに思ったのでそれはお願いである。もしただ、担当が無理だとしたら、先ほど言ったようにまちづくりとの関係の中で、そことうまく連携しながらということで、必ず常駐で別な仕事をしてもらわないと青少年の人材不足ではなくて、足りなくなっ小さくなっってしまうのではないかなと思うので、よろしく願います。

二つ目、堀先生とかがおっしゃっていたが、お話しの中で〇〇〇〇〇〇ではないか、だとすれば資料の5番の中で目標というのがあった。この中にはa b c dと書いてあっ

てこういうのが目標だよと。実はすべて協働まちづくりと関係することは知っている。是非使ってほしいのがこれは障害福祉課で今策定しているはずですから、地域学校協働活動との関係の中で学校を巻き込むにしても絶対必要なことだし、このあたりもううまく生かしてほしい。これはもしかしたら a ではなく b のほうが絶対動かすべきものであってもよいのかなと思うのだが、この辺も大事にしてほしいなというのが二つ目である。

最後に、気になったので16歳の子と29歳の子と一緒に集団を20人くらい組んだときになかなか厳しいと思うので、話しとして未来塾の中のジュニア版とシニア版とグルーピングして進めていかないと厳しいかなと思う。昔簡単に言えば青少年教育と成人教育に分けて同じように、その分けるというのは時には一緒に、例えばこの間鹿島台で水害があったときにそういう人たちが集まって微力だけ行ってみたいなかと言ったときにはむしろ若い人たちのほうが強かったりするんで、そういう意味で一緒なのだがということでジュニア版シニア版という言い方が若い人からすればおかしいですよ。そんな形での考え方をしっかり持っていなければいけないかなと思ったのでよろしくお願いします。以上です。

○市長：ありがとうございます。

○若見委員：私が思ったこと一言なのだが、これをやるよと言ってもらいたい。ボランティアに行くよ、あれをやるよ、集えみんなと言ってもらいたい。そうするとそれに集まってくる子たちがいると思う。そこから今度次は何、これをやるよと誘うというのが漠然としすぎると何をしたいのかわからない、私も大崎市に向けてどこに向かうのだろうなと思ってしまう。これをやるよ、あれをやるよとフラグを立ててほしい。そこに向かう世界農業遺産に行くよと言えばそれに興味のある皆さんが来ちゃうからそれでよいと思う。ボランティアやるよ、私がじゃあ行きます。まちづくりやるよ、まちづくりとは何かというところから始まってきちんと明確にしてほしい。もう何々やるから手伝いに来て。公民館の何かやるよ、話を聞かせてとかフラグをパッパッと立ててもらいたい。そうすると私はすごく参加しやすいしそれに興味があつたらすごく動きやすい。この神社の掃除をするよ、何をするよでもよいのです。本当にこの神社のどんぐりをみんなで拾おうよ、それだけでもよいのです。その地域に今現在ある神社など掃除するというのはすごくよいと思う。なので、地域貢献できるようなものを、一つフラグを立ててほしい。そうすると集まりやすいと思う。以上です。

○市長：ありがとうございました。よろしいですか。

○佐藤委員：今若見委員さんがおっしゃったことも大切なことだが、この大崎未来会議というのはまたちょっと意味が違うのではないかなと思う。そういう人たちに集まってもらっているんな何をやれとどこからか言われてやるのではないし、何かやったらよいことがあるのでないかなというのをいろいろ意見をあげてもらって実現していくのにはどうしたらよいかなとか、それでその委員が何かわからないが定員の人たちは周りから親でもいいし友達でもいいしそういう意見とかをいろいろ聞きながらどうするのがよいかなとか話し合っていてやっていこうというのがこの未来会議というものではないかなと思って読ませてもらった。そういう意味では若見委員さんがおっしゃることも大切だけれど、そういう何をやったらいいかなといろいろ一緒に考えてもらおうというような事業なのかなと思って聞いていた。以上です。

○市長：多目的なたくさんのご意見をいただいた。それらを大いに参考にして事業回復に今後足立をしていっていただきたいと思う。

ちょうどお約束の時間になってきたので、以上で協議事項を終了させていただく。

8 その他

○熊野教育長：統合再編について今進めており、こんな状況にきているという報告と同時に協力のお願ひである。

今古川の北部地区の小学校4校、それから古川の西部地区の小学校、古川西部地区においては古川西中学校と4つの小学校とがいわゆる小中一貫型義務教育学校として進めるということで協議を進めている。各小学校単位のPTAとして各地区での説明会で概ね進んでまいり、合同検討委員会、概ね4つの小学校中心として合同検討委員会に進み、合同検討委員会でいろいろ是の部分と非の部分をいろいろ意見をいただき、具体的に解決できる問題は統合の準備委員会でも解決できそうだとということで、概ね統合についての理解をいただいているところである。そしていよいよ統合の準備委員会を立ち上げてよしとのお話しをいただき、この1月より統合の準備委員会に入る計画である。新たにスクールバスの運行とか、それから各地区が結構広範囲になるために行事等で保護者あるいはおじいさん、おばあさんが集まるためには駐車場がないとどうしようもないというご意見があったり、それから教育内容、そして校名や校歌等の準備をしていくことになる。併せて跡地利用の活用を統合後にやるのでは遅いので、準備委員会と並行しながらこの跡地利用についても是非会議会を立ち上げて並行して議論をしてほしいという意見も出ている。したがって準備委員会と同時にこの跡地利用の話も出てくることから今日その他で現在の状況をお知らせして、今後とも教育委員会のみならず各一部局関係者のご協力をいただければと思ってお話しをさせていただいた。

古川北中学区の小学校については、長岡小学校を使うということで小中連携型の新たな学校を今計画している。これは令和3年4月に開校を目標にしている。結構忙しいです。それから西中学校は校舎一体型の小中一貫校をつくるということで校舎の増築を必要になり、令和4年度の4月にスタートとこういう段取りにしていく計画である。教育委員会としても努力してまいりたいと思うが、是非皆さんのお力をお借りしながらよい学校づくりに邁進してまいりたいと思うので今後ともよろしく願ひいたします。以上です。

(以上閉会)